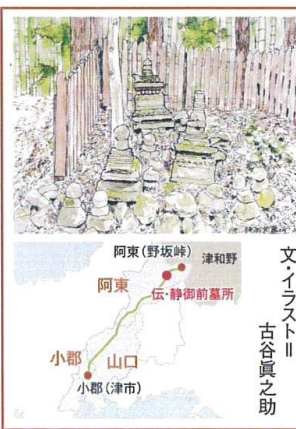




楊貴妃、小野小町のもとと伝わる墓のある下関、長門を訪れた方も多いのではないだろうか。石州街道沿いからは少し離れているが、十種ヶ峰の麓にも静御前のもとと伝わる墓がある。調べてみると、静御前の墓と呼ばれるものは小野小町同様に全国に分布しており、岩手県宮古市、埼玉県久喜市、兵庫県淡路市、奈良県大和高田市、新潟県長岡市、福島県郡山市、長野県大田市、福岡県福津市、香川県東かがわ市、大分県湯布院町、そして、



イラストでたどる石州街道 ㊹ 伝・静御前墓所

長門市油谷の楊貴妃、下関市川棚の小野小町と、絶世の美女の墓と伝わるものに事欠かない山口県だが、「徳佐にも「美貌と才芸、優雅と勇氣」を兼ね備えた人物と称えられる女性の墓がある。源義経の愛妾、静御前である。墓地は市場集落の西側約2キロメートル足らず、十種ヶ峰の麓の片山地区にある。静御前については今さら詳しく説明する必要もないだろうが、義経と生き別れてからは頼朝に捕まり、北条政子のとりなしで生きながらえるも、義経との間に授かった男子は殺され、剃髪して尼となり放浪したと言われる。そのため他の美人同様、全国各地に墓や伝承が残っている。墓所には静、そして息子、彼女の母の三基が静かに並んでいる。

文イラスト 古谷眞之助

ここ山口県山口市を含めて11ヵ所もある。さすがに北海道、沖縄にはないが、分布の範囲は広い。小野小町の場合はもっと多かった気がする。私は全く観ていないが、2022年に放送された大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にも登場したとのことだから、徳佐地区でのこの番組の視聴率は、案外高かったかもしれない。もともと静御前は歌舞を演じる白拍子と呼ばれる人物で、義経との出会いも雨乞いの踊りを披露しているところで見染められたのだとか。ともかく絶世の美女だったのは間違いないだろう。稀代の英雄には美女こそが相応しいのは当然、と言ったら叱られるだろうか。ただ美女の定義は時代とともに変わるだろうし、また個人的な好みも大いに影響するから、今の時代に静御前に出会ったとしても、がっかりするだけかもしれない。

閑話休題。静御前は吉野で義経と離れ離れになり、やがて頼朝に捕らえられる。妻政子が白拍子の舞を所望したことから鎌倉の鶴岡八幡宮で舞うことを承諾するが、その時に「吉野山 峰の白雪 ふみわけて 入りにし人の 跡ぞ恋しき」と謡って頼朝の逆鱗に触れ、あわや殺されそうになる。何とか政子のとりなしで一命を取り留めたが、その後産んだ義経の子の殺害を免れることはできなかった。それから放浪の旅が始まり、山口市徳佐で没したというのが、徳佐の墓所のストーリーである。鎌倉から山口にどのような経路で到達したかはもとより明らかではないし、あくまで「伝」と断っているのだからそれで良いのである。ただ、どれが静御前の墓で、その息子の墓なのか分からないのが残念。奥が母で、手前が親子か。(2024.8.27 記)